

平成27年6月25日

報道機関 各位

## 公開講演会 「認知症を学ぶ レビー小体型認知症とは」の開催について

とやま総合診療イノベーションセンターでは、9月26日、公開講演会「認知症を学ぶ レビー小体型認知症とは」を下記のとおり開催することとなりました。ついては、広く周知いただきたく、広報及び当日の取材・報道方よろしくお取り計らい願います。(北日本新聞社後援)

### 記

日時 平成27年9月26日(土) 13:30~16:30

会場 富山大学(五福キャンパス)黒田講堂

富山市五福3190番地

#### プログラム

13:30~13:40 挨拶 井内 努氏(富山県厚生部長)

13:40~14:50 特別講演「レビー小体型認知症の臨床と介護」

小阪憲司氏(横浜市立大学 名誉教授)

[座長] 鈴木道雄(富山大学神経精神医学 教授)

15:00~16:30 DLBセッション「レビー小体型認知症と生きる・共に支える」

[進行] 小阪憲司氏・竹内登美子(富山大学老年看護学 教授)

樋口直美氏(レビー小体型認知症 本人)

栗岡紀世美氏(レビー小体型認知症 家族介護者)

鬼頭恵津子氏(グループホームはるた 施設長)

加畑裕美子氏(レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会 リーダー)

16:30 閉会の挨拶 村口 篤(とやま総合診療イノベーションセンター長・  
富山大学医学部長)

#### ◎公開講演会 「認知症を学ぶ レビー小体型認知症とは」

とやま総合診療イノベーションセンターでは、レビー小体型認知症について広く知ってもらい、理解を深めるとともに、共に考える機会を提供するために、このたび、講演会を開催することとなりました。講師には、レビー小体型認知症の発見者として世界的に知られている小阪憲司先生を始め、家族介護者の方々などをお招きいたします。

【本件に関する問い合わせ先】  
とやま総合診療イノベーションセンター  
TEL 076-415-8867

認知症を学ぶ

## レビー小体型認知症とは

2015.9.26 (土)

13:30~16:30

富山大学五福キャンパス黒田講堂

参加無料/定員500名

主催：とやま総合診療イノベーションセンター  
 後援：富山県 富山県医師会 富山県在宅医会 富山県薬剤師会 富山県病院薬剤師会 富山県看護協会  
 富山県訪問看護ステーション連絡協議会 富山県老人福祉施設協議会 富山県社会福祉協議会  
 北日本新聞社 富山テレビ放送 富山大学

## PROGRAM

13:30~13:40 ご挨拶  
 富山県厚生部長 井内 努 氏

13:40~14:50 特別講演「レビー小体型認知症の臨床と介護」  
 横浜市立大学 名誉教授 小阪憲司 氏  
 [座長] 富山大学 神経精神医学 教授 鈴木道雄

14:50~15:00 休憩

DLBセッション「レビー小体型認知症と生きる・共に支える」  
 [進行] 小阪憲司 氏・富山大学 老年看護学 教授 竹内登美子  
 15:00~16:30 演者 レビー小体型認知症 本人 樋口直美 氏  
 レビー小体型認知症 家族介護者 栗岡紀世美 氏  
 グループホームはるた 施設長 鬼頭恵津子 氏  
 レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会 リーダー 加畑裕美子 氏

16:30 閉会の挨拶  
 とやま総合診療イノベーションセンター長・富山大学医学部長 村口 篤

お申込み・お問合せ ▶ とやま総合診療イノベーションセンター 〒930-0194 富山市杉谷2630 TEL 076-415-8867 FAX 076-434-5071

参加申込書 申込締切 9月18日 (金) FAX 076-434-5071, 5139 (当日参加も可能)

(ふりがな)  
お名前

所属

職名

(ふりがな)  
お名前

所属

職名

(ふりがな)  
お名前

所属

職名

住所

TEL

## 講師紹介

### 小阪 憲司(こさか けんじ)氏

横浜市立大学名誉教授。1965年金沢大学医学部卒業。医学博士。レビー小体型認知症(Dementia with Lewy Bodies; DLB)の発見者として世界的に知られている。レビー小体型認知症の診断、治療の発展に貢献した功績が評価され、2013年度朝日賞を受賞。現在は、クリニック医庵センター南(横浜市)で認知症専門医として診療に携わる。日本老年精神医学会・日本認知症学会・日本神経精神医学会・日本神経病理学会の名誉会員、レビー小体型認知症研究会の代表世話人、レビー小体型認知症サポートネットワーク顧問を務める。主な著書:レビー小体型認知症の診断と治療～臨床医のためのオールカラー実践ガイド、harunosora 出版、2014年。第二の認知症—増えるレビー小体型認知症の今、紀伊国屋書店、2012年。



### 樋口 直美(ひぐち なおみ)氏

1962年生まれ。30代後半から幻視を見たが目の錯覚と思っていた。41歳の時、不眠で受診うつ病と誤診される。抗うつ剤で震え、失神など重い副作用が出て仕事を辞める。効果を感じないまま約6年間薬物治療を続け、治療を止めて大きく改善した。2012年虫の幻視を自覚し、レビー小体型認知症を疑う。心筋シンチグラフィ検査など受けるが、画像に出ず、診断されなかった。2013年体調不良が悪化し、症状からレビー小体型認知症と診断される。抗認知症薬治療で体調、幻視が改善。その後、様々な方法で症状を改善できることを発見し、自律神経症状以外は消失。認知機能も正常化し、幸せに暮らしている。千葉県在住。

### 鬼頭 恵津子(きとう えつこ)氏

(株)シャトラスグループホームはるた施設長及び管理者。デイサービスセンター・特別養護老人ホームで勤務後、2004年2月より現職。18名の入居者のケアを実践しながら、2006年より名古屋市認知症介護指導者として、研修等に従事。2009年より「レビー小体型認知症家族を支える会」の愛知支部長として、交流会等を企画・実施し、レビー小体型認知症の啓発活動に取り組んでいる。(レビー小体型認知症家族を支える会は2014年11月より、レビー小体型認知症サポートネットワークに名称を変更)。介護を必要とするようになったことで「できなくなったしたいこと」「行けなくなった行きたい場所」。再び「できる」「行ける」夢を応援することに意欲を燃やしている。愛知県在住。

### 栗岡 紀世美(くりおか きよみ)氏

2007年10月、義母(当時77歳)がレビー小体型認知症と診断。2014年6月より要介護5。10年の24時間在宅介護を続け現在に至る。診断直後、医師の告知に一時は絶望を味わうものの、適切な治療とケア次第で普通に暮らせる時間が少しでも長くなるのではないかと願いを抱き、レビー小体型認知症に手探りで向き合い改善を実感。そうした日々をブログ「薔薇と宝塚とキラキラが好き」で発信中。2009年2月レビー小体型認知症の介護家族に特化した集い「関西きらきら組」を発足。2ヶ月毎の開催で、それぞれの経験からレビー小体型認知症への理解を深める一方、症状評価表(独自で考案)を活用し、適切なケアや治療を都度検討し合い、本人と家族の「困った」を小さくしながら共に穏やかに暮らせるよう取り組み続ける。京都府在住。

### 加畑 裕美子(かはた ゆみこ)氏

レビー小体型認知症の父とアルツハイマー病で腎臓がんの母を在宅介護し、看取る。2009年1月、介護家族の仲間6名で「レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会」を立ち上げる。2011年10月には、「全国レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会ネットワーク」を結成、本部支部はなく、医療にも偏らず、レビーの家族が手をつないで支え合う。現在、東京ではひと月に1回、介護家族の集いを開くとともに、現役介護家族手作りのニュースレター「ゆるりん通信」を不定期で発行。レビー小体型認知症を知ってもらい、理解してもらうために患者と家族の声をさまざまな場に届け、話し続けている。NPO法人認知症ラポ理事。NPO法人認知症フレンドシップクラブ品川事務局。東京都在住。

## 会場

富山大学五福キャンパス 黒田講堂  
(大学正門から入って右手にある楕円形の白亜の建物)  
富山市五福3190番地  
市内電車 JR富山駅南口から2系統(大学前行)乗車約15分、  
「大学前」下車 徒歩約5分  
バス JR富山駅南口3番のりば 富山地铁・路線バス  
「富山大学前経由」乗車約20分、  
「富山大学前」下車すぐ

※ご来場には公共交通機関をご利用ください。

